

### 遺跡 GIS 研究会

埋蔵文化財センター文化財情報研究室では、2001年11月16日に、6回目となる遺跡 GIS 研究会を「測量計測技術と遺跡 GIS」のテーマのもと開催しました。この会では、GIS（地理情報システム）の考古学分野での応用を研究しています。研究発表のほか、機器やソフトの展示もおこない盛会でした。

研究発表は、国際日本文化研究センターの森洋久氏が「GLOBALBASE：中心をもたない歴史地理情報システム」、国際航業の本郷賢児氏が「レーザスキャナによる文化財の計測」、倉敷紡績株式会社の桜井靖久氏が「市販デジタルカメラによる写真計測システムについて」、京都市埋蔵文化財研究所の宮原健吾氏が「オルソ画像と遺跡調査への応用」、奈良大学の泉拓良氏が「レバノンでの GIS 考古学の実践」の題でそれぞれおこないました。

簡便でありながら精度の高い各種システムの開発が進んでいることがよくわかり、文化財関連分野での応用例もより高度なものが見られるようになりました。  
(埋蔵文化財センター)